

「第3次石狩市観光振興計画の策定について」に寄せられた意見と検討結果

【パブリックコメント実施期間】 令和3年12月20日（月）から令和4年1月20日（木）まで

【担当部局】 企画経済部商工労働観光課

【意見提出者】 3人

【意見件数】 18件

【意見への対応】	採 用	: 意見に基づき原案を修正するもの	1件
	一部採用	: 意見の一部に基づき原案を修正するもの	0件
	不 採 用	: 意見を原案に反映しないもの	0件
	記 載 済	: 既に原案に盛り込まれているもの	7件
	参 考	: 原案に盛り込めないが今後参考とするもの	0件
	そ の 他	: ご質問・ご意見として何うもの	10件

【意見の検討経過】 令和4年1月21日～2月7日 当課及び関係部局において意見の検討及び検討結果（案）の作成
令和4年2月9日 関係部局に合議のうえ、市長決裁にて最終決定

「第3次石狩市観光振興計画の策定について」に寄せられた意見と検討結果

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
1	市制施行 35 周年記念事業 新しい観光資源の創出(観光都市づくりの 10 か年計画) の提案 北海道を代表するシンボルタワー(道内 1 の高さを誇る 199.6m) を親船・本町地域に建設する。168.8m(1688 年に快風丸石狩到着) に小樽・祝津・日本海の水平パノラマ・浜益・札幌市街地等が望める 360 度展望の階層を設けたタワーを核とした、歴史・文化・観光村を 2031 年に完成させる。 (参考) ①199.6m は、市制施行年である 1996 年の語呂合わせ ②令和 4 年現在の道内シンボルタワーの高さベスト 3 1 位 さっぽろテレビ塔 147.2m 2 位 五稜郭タワー 107.0m 3 位 北海道百年記念等 100.0m	その他	本計画は、石狩市の地域個性を活かして観光振興を図るため、目指すべき方向性や重点施策などを定めるものであり、個別具体的な事業計画を定めるものではありません。 ご提案は、今後の観光施策に関するご意見として承ります。
2	鮭(缶詰製造)から酒(日本酒製造)へ歴史的産業の新創出(海外の新市場へ進出のチャンス) 観光産業の新たな挑戦として鮭のイメージから脱却	その他	本計画は、石狩市の地域個性を活かして観光振興を図るため、目指すべき方向性や重点施策などを定めるものであり、個別具体的な事業計画を定めるものではありません。 ご提案は、今後の観光施策に関するご意見として承ります。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	し、オール石狩で作上げた「made in ISHIKARI」の日本酒を醸造し、国内はもとより世界を視野に入れ市場展開する。 (参考銘柄名) 清酒 石狩 又は 清酒 石狩川		
3	親船・本町地区を文化・観光エリアと位置づけ、郷土資料館・ニシン資料館などの学習施設の充実を図る。 ニシン番屋（浜益から移設）・北前船資料館・民族歴史館・宿泊施設・昼食施設（団体客も対応可）をエリア内に建設し、札幌近郊の立地条件を活かし切れずにいた観光客の誘致を、従来の通過型から滞在型に変えることで滞在時での経済効果や老若男女問わない雇用創出にもつながり、活気・夢・希望あふれる観光都市づくりができる。	記載済	本計画では、基本施策4「サケやニシン等の歴史・文化の発信」に記載のとおり、サケやニシンに関する歴史・文化を観光資源の一つとして活用し観光客の誘致を図るとともに、市民等の理解を深めることで次世代へ引き継いでいくこととしております。 ご提案は、今後の観光施策に関するご意見として承ります。
4	石狩海岸を北海道遺産にし、重要な観光資源とする。 1 ページの中程に、北前船の寄港地を構成自治体とする日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に石狩市が追加認定された	その他	本計画は、石狩市の地域個性を活かして観光振興を図るため、目指すべき方向性や重点施策などを定めるものであり、個別具体的な事業計画を定めるものではありません。 ご提案は、今後の観光施策に関するご意見として承ります。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	こと、また、市民有志が復元作業を進めてきた「濃屋山道・増毛山道」が北海道遺産に認定されたことが、観光資源として重要であることが述べられています。 平成 13 年（2001 年）の北海道遺産第 1 回選定では、日本で最大級といわれるカシワを主体とする天然の海岸防風林を石狩が北海道遺産に申請しましたが、惜しくも落選しました。 北海道遺産については、現在第 4 回の選定（2022 年 10 月 13 日発表）候補を募集中（2022 年 2 月 28 日まで）であり、今まさに申請のタイミングだと考えます。石狩市においては、ぜひとも北海道遺産の申請にご協力をお願いしたいと思っています。 海岸防風林だけではなく、砂浜海岸・海岸草原を含めた石狩海岸全体を、石狩市の重要な観光資源として北海道遺産にすることを提案いたします。		
5	北海道新幹線のトンネル掘削土を石狩市に持ち込むことは、観光にとって負の資源です。 北海道新聞（2022 年 1 月 12 日）によれば、北海道新幹線の札幌延伸の札幌トンネルの掘削土（重金属が含まれている土も）石狩市で中間処理（アブナイ土とアブナ	その他	本パブリックコメントは、石狩市の地域個性を活かして観光振興を図るため、目指すべき方向性や重点施策などを定める第 3 次石狩市観光振興計画に関する意見を求めるものであり、個別具体的な事案について検討するものではありません。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	クナイ土を判定) をするとありました。 とんでもない話です。札幌市手稲区では、周辺住民対象の工事説明会を開き、石狩市に運ぶ方針を示したといっています。石狩市は何も知らされず、寝耳に水です。 アブナイ土を石狩市に持ち込むことは、石狩市の印象を悪いものにします。観光にとって負の資源となるものは、石狩市に絶対に持ち込んではいけません。		
6	9 ページの(1) 目指すべき方向性の説明図の中で、「市民が地域の魅力を知る・広める」ということを謳っているが、それに正に合致する市民活動が「石狩遺産」である。現在 11 件まで認定が進んでいるが、今後も石狩市全域の「未来に伝えるべき価値を有すること」を認定し、市民の共有財産として石狩市の魅力認知と発信活動を進めている。ぜひ「石狩遺産」の活用と拡大を加速したいものである。	記載済	本計画では、基本施策 5 「市民が活躍する観光まちづくり」に記載のとおり、市民が地域の魅力を知り、広める活動を推進していくこととしております。
7	11 ページの観光資源の活用について、かつて石狩浜に在住した画家、渋井一夫氏の「石狩画廊」は当時の石狩観光の看板のひとつであり、定番であった。彼の膨大な絵画作品や観光ポスターなど、多くの遺作と彼そのものは、石狩市の大きな財産であり観光資源である。また、私設資料館「石狩尚古社」に収められた膨大な資料も貴	記載済	本計画では、基本施策 4 「サケやニシン等の歴史・文化の発信」に記載のとおり、各分野における偉人や重要な文化財など、歴史・文化的な魅力の発信に努めていくこととしております。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	重な文化的財産であり観光資源である。個人ボランティア運営であるがゆえに、館内の資料の整理が行き届かず、収蔵品の目録さえできておらず、せっかくの宝が埋もれている状態である。抜本的な活用を模索すべきである。		
8	「重点施策１（海辺の魅力アップ）」に関連し、現在「石狩海岸サポーターズ会議」が石狩海岸の自然の素晴らしさを「北海道民の宝」として認知を図るため、「北海道遺産」への申請作業を行っているが、市も積極的に支援する姿勢であって欲しい。	その他	本パブリックコメントは、石狩市の地域個性を活かして観光振興を図るため、目指すべき方向性や重点施策などを定める第３次石狩市観光振興計画に関する意見を求めるものであり、個別具体的な事案について検討するものではありません。
9	14 ページの「観光資源・自然環境の保護保全」の項目に関し、どのエリアでどのような問題が発生する可能性があり、どのような対処が必要なのか、などの見通しの記述が欲しい。例えば石狩海岸エリアでは海岸草原への車両乗り入れの問題があり、市民団体が活動をしている例もあるが、そういった事例に対して連携を図るなど、アクションの方向性を示すことはできないだろうか。	その他	本計画は、石狩市の地域個性を活かして観光振興を図るため、目指すべき方向性や重点施策などを定めるものであり、個別具体的な事業計画を定めるものではありません。 なお、環境に関する長期的な目標や施策の方向性等は「環境基本計画」で定めており、本計画では、重点施策④「観光資源・自然環境の保護保全」に記載のとおり、観光業の発展と環境の保全の両立を図ることとしております。
10	14 ページの「石狩浜はまなす再生プロジェクト」の位置付けがよくわからない。「協議会」が進めている事業のようだが、この団体と市との関係はどういうものなのか？	その他	市（石狩浜海浜植物保護センター）では、ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりを目指すため、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と連携して「ハマナス再生園」の整備に取り組むとともに

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
			に、イベントの実施やハマナスの商品づくりを通じて石狩浜と地域の魅力を発信しています。 本計画においては、観光による地域活性化と自然保護を両輪で推進する先進的な事例の紹介として、「石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会」の取組を記載しています。
11	15 ページの「市内周遊の促進」に関し、かねてより、道の駅のできた厚田までの観光客をさらに浜益へ繋ぐという観点で、その中継地点にある濃屋には貴重な観光資源となりうる濃屋番屋（木村番屋）が存在するが、その建物の維持が危機的状況にあると聞く。この番屋は 18 ページで掲げるニシン文化の象徴とも言える建築である。なんらかの対策は打てないのだろうか。	その他	本パブリックコメントは、石狩市の地域個性を活かして観光振興を図るため、目指すべき方向性や重点施策などを定める第 3 次石狩市観光振興計画に関する意見を求めるものであり、個別具体的な事案について検討するものではありません。
12	石狩市域にはかなり広い面積で「暑寒別天売焼尻国定公園」エリアを持つ。しかしながら、せっかくの「国定公園」という看板を活かせていない印象が強い。安瀬から毘砂別にかけての海岸エリアは、特に「飛び地」として指定されているエリアである。アプローチ可能な集落として濃屋、送毛、毘砂別などがあり「国定公園」のスポットとしてアピールすべきである。ルーラン海岸などは陸路からのアプローチが断たれてしまっているので、海路からの観光クルーズを試験的に行うなど、なんらか	記載済	本計画では、基本施策 1 「観光資源の活用と整備」に記載のとおり、既存の観光資源の磨き上げを図るとともに、新たな資源の創出に取り組んでいくこととしております。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	の模索を行うべきと思う。霧多布湿原エリアは長年「道立自然公園」から「国定公園」への昇格活動を地道に行い、一昨年ついに昇格を果たし悲願達成と関係者は大喜びしていた。石狩市の場合、すでに「国定公園」なのであり、このアドバンテージを最大限活かして欲しい。		
13	国指定の史跡「荘内藩ハマシケ陣屋」、国指定の名勝「黄金山」などは、国のお墨付きを冠した観光スポットとしてのアピールを進めて欲しい。特に「荘内藩陣屋跡」は大手門の改築、敷地内周回ルートの開削などが進み、地元の活動努力が続けられている。ここは駐車場スペースの確保を早急に進めるべきである。	記載済	本計画では、基本施策1「観光資源の活用と整備」及び基本施策4「サケやニシン等の歴史・文化の発信」に記載のとおり、史跡・名勝などの魅力発信に努めていくこととしております。 ご提案は、今後の観光施策に関するご意見として承ります。
14	17 ページの食を通じた誘客促進に関し、石狩市の全国区で知られる料理は「石狩鍋」である。しかし、その本場の本町地区において、いつでも食することができないのは、大きな痛手である。また、本町地区の工場で製造されている佐藤水産の鮭醤油が本町地区で購入できないのは、極めて不都合である。また、石狩鍋に代わる気軽な名物料理として「鮭醤油の卵かけご飯」の開発はどうか？これは意見ではないが、石狩市には「イコロ卵」と「海の街たまご」という評価の高いブランド卵が	その他	ご提案は、今後の観光施策に関するご意見として承ります。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	あり、厚田米も極上米との声が高い。これらを合体させて「極上卵かけご飯」メニューを提案したい。		
15	18 ページ「サケやニシン等の歴史・文化」に関し、北海道遺産に「サケの文化」という項目があり、石狩市も当然関わっている。「弁天歴史公園」の運上屋棟に北海道遺産認定プレートも存在するのだが、この活用がまったく見えない。また、同じく北海道遺産に「石狩川」という項目があり、石狩川河口の町、石狩市も関わっているが、こちらの活用も見えていない。せっかくの認定遺産なのだから貪欲に活用すべきだろう。また、冒頭にも触れたが石狩遺産では「鮭漁の歴史遺産群」「ニシン文化を伝える厚田本村」「弁財船と石狩」「荘内藩ハママシケ陣屋跡」などの項目もあるので、有効に活用すべきである。	記載済	本計画では、基本施策4「サケやニシン等の歴史・文化の発信」に記載のとおり、北海道遺産に認定されている文化財などの歴史・文化的な魅力の発信に努めていくこととしております。 ご提案は、今後の観光施策に関するご意見として承ります。
16	19 ページの「シビックプライドの醸成」は「石狩市総合計画」での「30 年後のまちの持続」を実現するための最も重要な項目である。以下、少し極端ではあるが私の恐れているイメージを語る。石狩市は札幌市の新興ベッドタウンであるため、石狩市の全人口の8割を占める花川住民は移住者である。もともと地元意識もなければ愛着も薄い。生活の糧を札幌で稼ぎ、寝るために石狩に帰	その他	個人の意見として承ります。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	ってくる。石狩にあまり興味はないし、町内会も煩わしい。週末も札幌に出かけることが多く、お金も札幌に落とす。そんな親たちに育てられた子供達も当然、石狩に興味をあまり持たず、石狩市民としての誇りも薄い。小中学校の先生たちも３年間赴任してくるだけで石狩市のことは全く知らない。石狩市の子供達は地元を誇り持たないため、大きくなったら石狩市から脱出してしまう。かくして 30 年後の石狩には地元を愛する大人は少数。一方、札幌で仕事をし、生活の場のほとんどを会社と札幌で過ごして定年を迎えた石狩市のシニアは、会社という社会との繋がりを断たれたとき、地元を全く知らないことに愕然とし、地元の人との繋がりも築いてこなかったため孤独を味わう。ネットに逃げ込むか、昔の仲間と連絡を取り合うしか生きがいを見出せない。地元の講座などを急に受講してお茶を濁したりする。かくして石狩市は生きる活力を失った高齢者多数の街になる。こんなイメージだ。 そもそも観光とは、地元民が自らの町を胸を張ってようこそ！と歓迎することでありたい。地元民がぜひ来て欲しいと言っていない場所に、外からのお客様を呼ぶことは失礼なことのような気がする。現在の石狩市の現状はかなりそれに近い状況ではないだろうか。地元のことを		

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	知らない市民のまち石狩。また、半数が札幌市民の職員さんは大丈夫だろうか。まずは石狩市の歴史と自然と文化をみんなが知ることが大事。知らないものを売ることにはできないし、商品知識がなければ販売はできない。知識がなければプライドは持てない。石狩市の一番の観光ターゲットは花川周辺市民だと思う。週末は札幌ではなく回れ右をして、本町、厚田、浜益へ出かけて、そこでお金を落としてもらいたい。花川周辺市民に地元意識を芽生えさせ、地元への誇りを持ってもらう。これこそがすべての始まりではないだろうか。これらは結局「観光まちづくりワークショップ」での結論とも一致する。		
17	重点項目 10 の「ボランティアガイド等の育成・支援」に関し、「いしかりガイドボランティアの会」は会員の高齢化と新会員候補不足により存続がかなり危うい状態である。ガイドの募集、育成、運営などはボランティア団体での限界があるかと思う。	記載済	本計画では、重点施策⑩「ボランティアガイド等の育成・支援」に記載のとおり、ボランティアガイド等を将来へ引き継いでいくための育成・支援に努めていくこととしております。
18	23 ページの観光振興計画策定委員会だが、公的審議会なのだから構成メンバーを示すべきなのでは？ 同様に 24 ページの「観光まちづくりワークショップ」もどんなメンバーで話し合われたのか、ある程度示すべ	採用	審議会等の構成員を計画内に記載することは必須ではありませんが、ご意見のとおり、第 3 次石狩市観光振興計画策定委員会の構成員の団体名、役職、氏名を「(参考) 計画策定のプロセス」に記載いたします。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	きなのでは？		また、観光まちづくりワークショップについては、参加いただいた団体名を同箇所に記載いたします。